

＜今日の説教のポイント 創世記 30 章 25 節～43 節＞

①変わり出したヤコブ — ヨセフが与えられた時に

ラバンにだまされて苦しみ、さらに二人の妻レアとラケルの対立に悩まされたヤコブ。しかし不妊のラケルにヨセフが与えられた時に変化が訪れます。生まれ故郷に帰ろうと思ったのです(25 節)。14 年間の苦しみの経験は無駄ではなかったのです。それは放蕩息子が父親の元にいた時の恵みの大きさに気いて戻ろうとしたのと似ています (ルカ 15:17)。

②変わり出したヤコブ — 神様の守り導きを思うようになってきた

なによりヤコブが神様の導きを考えるようになってきているのが驚きです。ラバンが富んだのは自分のせいだとせず、神様が与えて下さったと語っているからです(30 節)。苦しみ、悲しみ、孤独などの中に置かれた時に聖書の神様に出会うことができたなら、事態はもう変わり出しているのです。しかしそれはまだ始まりに過ぎません。

③しかし、まだ変わらない面も — ラバンの策略に策略で返したヤコブ

ヤコブの場合もそうです。周囲の状況も彼自身の状態もまだまだ山あり谷ありです。この時はまだヤコブは、「独り立ちしたい」(25 節)、「自分の家を持ちたい」(30 節)と言っています。まだ自我が強くあります。ラバンもまた富を生むヤコブを手離そうとはしません(31 節)。そこでヤコブは、「何もくださるには及びません」(31 節)と言った言葉とは裏腹に巧妙な策略を巡らし、自分の資産を増そうとしたのです。神様に信頼して心配せず策略も巡らさずに歩む。そこまでは至っていません。

④神様はなぜこんなヤコブを見限られなかったのか？

それでも神様は彼に幸いをもたらされました(43 節)。なぜでしょうか？ 実は、ヤコブにはこの後、さらにまた別の苦難が待っていました。その中で、ヤコブは神様を信じて歩み行くことが一番幸いなことをはっきり思う者へと変えられて行ったのです(次週の箇所)。すべて私たちにも当てはまることです。神様がヤコブを見限られなかったのが、私たちにとっても最大の恵みであることを覚えたいと思います。